

ヘルスケア・レストラン

2014

11

November

抜き刷り版

医療・保健・福祉・介護の栄養と食事サービスを考える

[H+B セミナーレポート]

カロリーアップと排泄ケアセミナー 効果ある活用例を臨床から学ぶ



オリゴ糖でおなかを健康に

ビフィズス菌を増やす “乳糖果糖オリゴ糖” 配合商品です。



熱に強く、
料理や飲み物に混ぜて
お使いいただけます。

- 小さじ1杯7g(分包1包)あたり13kcal^{*1}、ラクトスクロース^{*2}が3.6g含まれています。
- 摂取目安量は、7g~28g/1日。最大無作用量は、ラクトスクロースとして0.6g/kg(体重)。
※1:砂糖に比べてカロリー35%カット※2:乳糖果糖オリゴ糖の主成分



乳糖果糖オリゴ糖シロップ
内容量：左) 7g×40包 右) 700g

分包(40包)

700g

※パッケージデザイン等は予告なく変更されることがあります。

たんぱく質^{ゼロ}の エネルギー補給 “粉飴ゼリー”です。

こな あめ

- ゼリー1個はすべて160kcal。おいしく手軽にエネルギーが補給できます。 **エネルギー** 160 kcal
- たんぱく質は0g。ナトリウム・カリウム・リンもほとんど含まれていません。 **たんぱく質** 0g
- 身体に不足しがちな食物繊維がたっぷり5g。効率よく摂取できます。 **食物繊維** 5g
- 高齢者の方にもピッタリ。完食しやすい1個82gの食べ切りサイズです。 **内容量** 82g

粉飴ゼリー 無果汁
全6種/内容量：各82g **こなあめ** シリーズ

エネルギーアップが必要な方へ



コーヒー味



ぶどう味



りんご味



オレンジ味



もも味



うめ味

※パッケージデザイン等は予告なく変更されることがあります。

商品に関する
お問い合わせ

株式会社H+Bライフサイエンス
http://www.hb-life.jp/
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-34-1 RD神田ビル5F

お気軽にお問い合わせください。
tel.03-5298-8188
9:00~17:30(土・日・祝を除く) **はるもにあハウス**



カロリーアップと排泄ケアセミナー 効果ある活用例を臨床から学ぶ

株式会社H+Bライフサイエンス(東京都千代田区)

同じ甘さで砂糖の5倍
カロリー補給に適した「粉飴」

エネルギー補給と乳糖果糖オリゴ糖による排泄ケアをテーマとした「カロリーアップと排泄ケアセミナー」が、9月6日(土)に高知市の高知城ホールで開催された。

同セミナーは、株式会社H+Bライフサイエンスが主催。公益社団法人高知県栄養士会の後援によるもの。当日は、病院や介護施設などの管理栄養士、栄養士が約100名参加し、会場は満席となった。

セミナーは講演3題と症例発表2題の5部構成となっており、第1部では川崎医科大学附属病院栄養部部長の市川和子氏が登壇。「エネルギー不足



市川和子氏(川崎医科大学附属病院栄養部部長)

にならない栄養管理「粉飴の有効活用」の紹介」と題し講演を行なった。市川氏は、冒頭、糖の効果・種類、化学構造や吸収の仕組みなどについて解説。そのうえで、急性・慢性腎不全などで厳しい蛋白質制限のケース、脾臓病、胆のう炎、胆石症など厳しい脂肪制限のケース、術後回復期のエネルギー補給に、蛋白質・脂質がまったく含まれていない「粉飴」(H+Bライフサイエンス)が適していることを説明。同院で病院食に応用した事例を紹介した。

特に、高齢者のエネルギー補給には脂質より甘いものの方が向いていると強調。砂糖、マービー、粉飴を同じ甘味度にするためのカロリー量は、①砂糖5g≒20kcal、②マービー6g≒12kcal、③粉飴25g≒100kcalであり、「粉飴は、同じ甘さで砂糖の5倍ものカロリーを得ることができる」と説明した。

さらに市川氏は、「デンプンのほうが効率がよいが、摂取できるケースばかりではない」とし、同院での病院食への応用事例をあげ、「粉飴だけで必要なカロリーがとれている。ちゃんとした

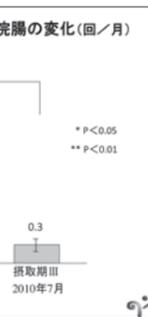
食事指導をし、その患者さんに合わせば効果はつきりと出ます。症例が教えてくれる」とその効果を説明した。

安全域が広い乳糖果糖オリゴ糖下剤を減らしイレウス防止へ

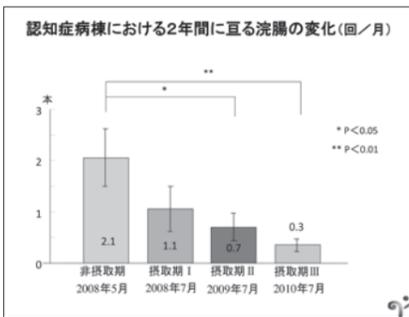
第2部は、新阿武山病院精神一般病棟看護長の田崎牧子氏が登壇。「排便コントロールと介護負担」認知症病棟の現場から」と題し、講演した。

田崎氏は認知症高齢者について、抗精神病薬や抗パーキンソン剤の副作用で腸管の運動機能が低下し、直腸反射が鈍くなる、またトイレの場所がわからず徘徊しているうちに排泄のタイミングを逃すことから慢性的な便秘に移行してしまう状況を説明。この対策として同院は、乳糖果糖オリゴ糖シロップの摂取を行なっていることを紹介した。

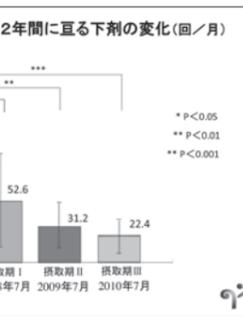
その効果は、排便をコントロールする下剤や浣腸の量を大幅に減らすことができたり、有形便が出るようになるなど、想像以上だったことが語られた。また田崎氏は、「浣腸をする回数が減れば、時間に余裕が出るので、ゆ



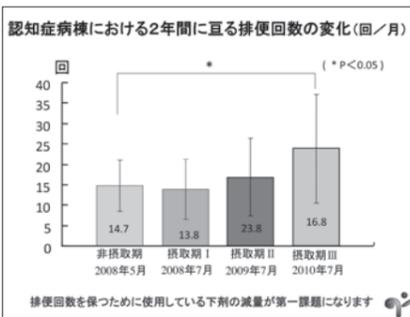
認知症病棟における2年間に亘る下剤の変化(回/月)



認知症病棟における2年間に亘る洗腸の変化(回/月)



認知症病棟における2年間に亘る排便回数の変化(回/月)



認知症病棟における2年間に亘る排便回数の変化(回/月)

井戸由美子氏(新阿武山病院)資料



西尾由香氏(細木ユニティ病院)資料

のような治療もできなくなる。このようにな多くの患者さんをみてきた」と語り、下剤による腸管機能の低下の危険性を訴えた。

この効果的な対策として、井戸氏が取り組むのは乳糖果糖オリゴ糖の導入だ。「ビフィズス菌増殖活性など整腸効果があり便通を改善させる。薬剤の使用量を減らすことができる」とし、排便回数の増加、臨時下剤の減少、浣腸使用量の減少など同院における2年間のデータを公表した。

また井戸氏は安全性にも触れ、「乳糖果糖オリゴ糖は、各種オリゴ糖のなかでも少ない量で効果が期待できる。多く摂っても下痢しにくく安全域が広い。私も日に12g飲んでいる」と明かし

た。使用量については、「効くまで飲んで大丈夫。効果をみながらの調整でよい」と説明。さらに、「お玉に一杯分を飲んで大丈夫ですよ」と会場の笑いを誘った。

精神症状の安定や食欲抑制など乳糖果糖オリゴ糖の効果報告

講演後は症例発表に移り、まず、細木ユニティ病院栄養管理室管理栄養士の西尾由香氏が登壇。「乳糖果糖オリゴ糖を用いた排便コントロールへの取り組み」と題し、発表を行なった。西尾氏が取り組んだのは、精神薬・下剤・精神症状で排便障害がみられる患者に対し、乳糖果糖オリゴ糖を使用することによる改善だ。

発表では、適応障害や統合失調症や抑うつ状態など8つの症例を報告。いずれも、下剤・浣腸液の減薬・中止、排便に対する精神症状の緩和に改善がみられ、1日当たりの乳糖果糖オリゴ糖の使用は、1.0g/(体重)kg以上が有効であったことを報告。また、排便コントロールがよくなるにつれ、「精神症状も安定し、患者のQOL向上につながった」と西尾氏は効果を強調した。



西尾由香氏(細木ユニティ病院栄養管理室管理栄養士)

鈴木氏が取り組んだのは、市販されている4種類の甘味料を食前に摂取し、経時的に採血し、血漿グルコース、血清インスリン、血漿GLP-1を測定し、甘味料の違いが及ぼす影響を調べる研究だ。これは、株式会社H+Bライフサイエンスとの共同研究で、健康な成人男子5名で行なったもの。

発表では、難消化性のマルチトール・ラクトスクロースを含んだ甘味料の食前摂取は、GLP-1の分泌を促すという結果が報告された。被験者のアンケートでも、空腹感がないと感じる傾向が出ており、「GLP-1の胃腸運動低下や食欲抑制などの生理作用によるもの」と発表を結んだ。



井戸由美子氏(新阿武山病院栄養・給食室室長)



田崎牧子氏(新阿武山病院精神一般病棟看護長)



会場後方の展示コーナーではH+Bライフサイエンスの商品見本が人気を集めた